

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

事業名	国道1号 <small>せき</small> 関バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：三重県 <small>かめやま</small> 亀山市太岡寺町 至：三重県 <small>かめやま</small> 亀山市関町 <small>せきちやう</small> 鷺山	延長	2.5 km		
事業概要					
<p>一般国道1号は、東京都中央区を起点とし、静岡県静岡市及び愛知県名古屋市等の主要都市を経て、大阪府大阪市に至る、我が国の東西交通を担う主要幹線道路です。</p> <p>本事業の一般国道1号関バイパスは、三重県亀山市太岡寺町から三重県亀山市関町鷺山に至る名阪国道接続ランプを含む延長2.5 kmのバイパスであり、交通渋滞の緩和、地域経済の支援を主な目的として事業を推進しています。</p>					
H8年度事業化(L=1.1km)	H8年度都市計画決定	H12年度用地着手	H14年度工事着手		
H15年度事業化(L=1.4km)					
全体事業費	250億円	事業進捗率	67%	供用済延長	-km
計画交通量	14,700台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 2.3	総費用 (残事業)/事業全体 74/275億円 事業費：58/258億円 維持管理費：17/17億円	総便益 (残事業)/事業全体 174/359億円 走行時間短縮便益：148/303億円 走行経費減少便益：16/39億円 交通事故減少便益：9.7/16億円	基準年 平成25年	
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.5 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.1~3.2 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.3~1.3 (事業費 ±10%) 事業費：B/C=2.2~2.5 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.3~1.3 (事業期間 ±20%) 事業期間：B/C=2.3~2.4 (事業期間 ±20%)</p>					
事業の効果等					
<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・利便性の向上が期待できるバス路線（三重交通）が存在する。 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際拠点港湾（四日市港）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>③都市の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹線都市計画道路網密度が1.5 km/km²以下である市街地内での事業である。 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点開発プロジェクト（亀山・関テクノヒルズ）を支援する。 ・地域連携プロジェクト（いこか連携プロジェクト）を支援する。 ・主要な観光地（重要伝統的建造物群保存地区 関宿）へのアクセス向上が期待される。 <p>⑤安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設（三重県立総合医療センター）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>⑥災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次緊急輸送道路として位置付けられている。 ・緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路を形成する。 <p>⑦地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出量の削減が見込まれる。 <p>⑧生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NO₂排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 					

関係する地方公共団体等の意見

三重県知事の意見：

- ・ 対応方針（原案）のとおり、事業の継続について異存ありません。
- ・ 本事業は、交通混雑の緩和や地域経済の発展に寄与できる重要なバイパス事業です。今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、早期供用に向けた事業の推進をお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

- ・ 「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 国道1号の太岡寺町～木崎交差点間の渋滞損失時間は三重県内の直轄国道平均を超過。
- ・ 工業団地への進出が26社に至り、残る区画（23ha）の分譲も進行中。災害に備えたりスク分散を要因として進出地を決定する企業動向あり。
- ・ 重要な観光資源「関宿」への観光アクセス道路である現道1号に多くの大型車が流入し観光交通と混在。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 事業進捗率は約67%、用地取得率は約96%。（平成28年3月時点）
- ・ 国道25号名阪国道と直結するランプ部（延長0.7km）は平成19年度に開通済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 亀山市太岡寺町から亀山市関町鷺山（延長2.5km）は、周辺道路の整備状況等を見極めながら整備を実施。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

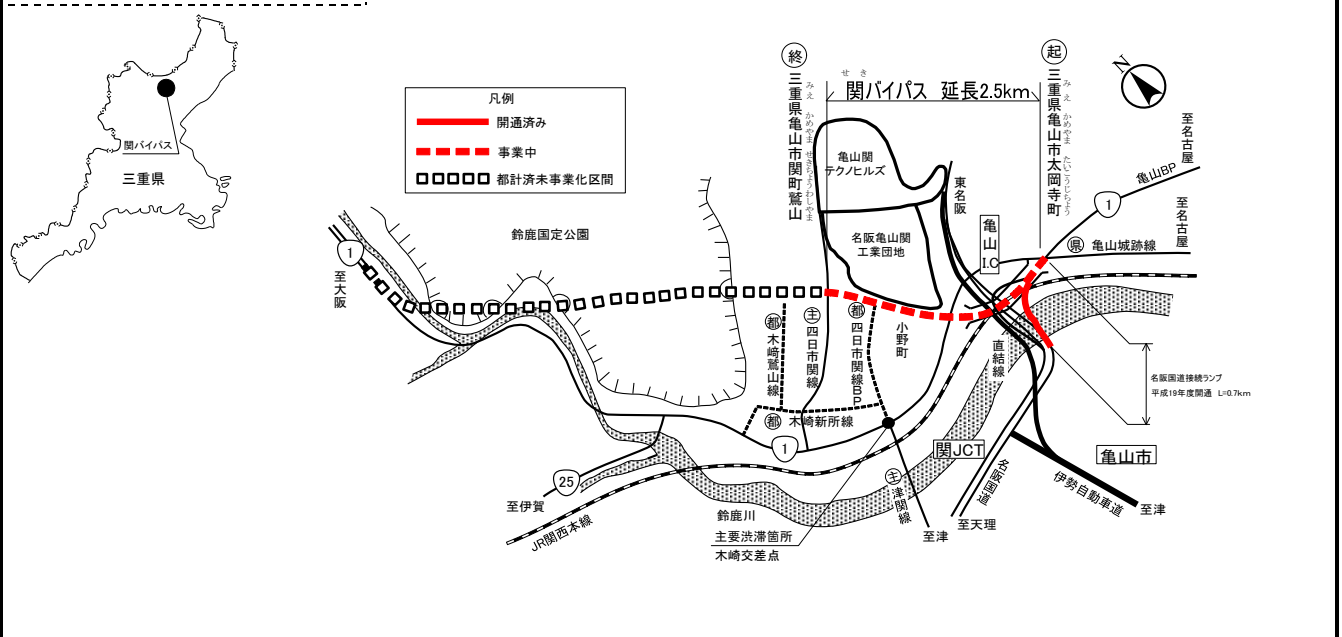
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。